

<教育目標>



英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに

新しい^ま都会^ちに (中野中だより)

平成 29 年 6 月 16 日発行

No. 4 校長 矢口 仁

バトンをつなぐ - 相手の立場になって - 校長 矢口 仁

紫陽花や 今日はどこまで色深む 木村 宏一

6月3日、天候に恵まれ運動会が終わりました。応援合戦に始まり、100m、学年種目、学級全員リレー……競技・演技に全力を尽くすだけでなく、声がかかるほど応援し合い、係の仕事に責任をもち、最後の片付けまでやり抜きました。立派な態度でした。今年は全学年4学級となり、色別対抗の競技が加わったため、例年以上に盛り上がりを感じた運動会でした。生徒たちに大きな拍手を送ります。



さて、私は健康維持のために、8年ほど前から週末に走ることを始めました。元々スポーツが大好きでしたが、それ以来、陸上競技にも興味をもつようになりました。先日テレビをつけたら、偶然、関東インカレ陸上競技を放映していて、楽しみました。

女子総合の部では、筑波大学がなんと今まで24連覇をしていたそうです。その時は、25連覇のかかった最終種目「マイルリレー」決勝が行われていました。得点は、2点差で筑波大が日体大をリードしています。リレーの優勝は8点、以下1点刻みで得点が下がります。筑波大学は2位以内に入れば優勝です。最終走者まで混戦で、見ていてハラハラしました。結果は、1位が日体大、3位が筑波大でした。同点です。結局、上位入賞者の数が多いチームが優勝というルールにより、日体大が総合優勝し、筑波大学の連覇を阻んだのでした。

マイルリレーは、一人が400mを走る過酷なレースです。普通の400mリレーでは、バトンの受け渡しの微妙なタイミングがタイムに大きく影響します。日本人はバトンパスがとても上手で、リオデジャネイロ五輪で銅メダルを獲得しています。しかし、マイルリレーでは、走者にとって最後の100mが限界に近く、次の走者が早く出過ぎればバトンがうまく渡りません。前の走者のことを考えながら、じっくりと待って、しっかりとバトンを受け取ることが重要になります。

運動会『全員リレー』でのバトンパスを思い出しました。男子から女子、女子から男子、走るのが得意な生徒から苦手な生徒へ……皆同じタイミングではうまくつながりません。テイクオーバーゾーンの20mを有効に使い、お互いが考え、声をかけ合い、相手を思いやる気持ちをもって、バトンを受け渡した場面が多くありました。このような気持ちが、普段の生活の中にも大きく広がっていくことを期待しています。